

心耕

7月号

暑いばかり、伸び盛りの土の分も7/7。
それでも朝になれば爽やかなという。

6 6 3 7

今月の行事

○十二日(火) 常例法座 午後一時より

はじめの一歩

○二十四日(日) 日曜法座 午後一時より

○写経会

8日(金) 午後1時から
約2時間

○勉強会

三島さんの
6日(水) 午後6時から
.....
12日(火) 午前10時から

十三日より

○各家庭へのお盆のお参り

・同封の地を割り日程表を参照して下さい。

○草刈り

17日(日) 午前8時から
約一時間 午後11時
お願ひします。

○御晨朝

おあさじい
毎朝六時半

厳しい暑さが三日続いた。風も

吹いてたのや助けになっしてくれい

た。今日朝から日射しがまっつい。

風は吹いていない。朝から気が滅

いてる。年のせいだと思っう。

六時前。まだ涼しいのに日が高

くなつてからの暑さに参っている。

カアカア。夏も冬も真黒の一

張箱でとおすカラスの強さは太し

たもんだ。どんな体をしてるの

か人の遠く及ばぬ世界を知っし

るのかも知れない。

どうじゃカミシの季節になる。地

上がとても暑くなつていっう。梅雨

セシは土の中ぞ知っているのだら

うか。今年はずいぶん心ない

いふ人な一し。そうだと。油断して

いると参っしてしまっうぞし。でもど

うやまで用ひするんだ。T. T. T. T. T.

『大経』五

「靈山聴衆とおはしける 源信僧都のをしへには

報化二土ををしえてぞ 専雑の得失さだめたる」

「源空みづからのたまわく 靈山会上にありしとき

声聞僧にまじはりて 頭陀を行じて化度せしむ」

この二首は『高僧和讃』の源信と源空を讃えたものです。

前々回に「我聞如是」とは私が聞いていると強調したよう

に、お一人はお経様を読む時に、お釈迦様の傍で多くの聴

衆と交わりながら耳を傾けていたのです。これから多くの聴

衆の名が読みあげられます。大乘經典の基本的なパターン

としては声聞衆・菩薩・天人等その他の順で挙げられます。

例として大経の初転法輪の五比丘から始まって入団の順

序によるもの、また『阿弥陀経』の長老舍利弗から初めて

十大弟子等を並べるものです。必ず釈迦と直接対面した

だろう声聞衆が初めにきています。声聞衆をユケにする大

乗ですが・・・？初期の大乘經典では大切な存在と考えら

れていたのでしょうか。後期のものは千二百五十人などと簡

単に書かれているものもあります。アーガマ等の經典では対

合する人の名前などが挙げられています。

次に来るのは菩薩です。この菩薩が一人でも入っていない

と大乘にはならないのです。菩薩とは菩提薩埵の略で「悟

りを求める有情」の事を言います。仏教に耳を傾ける者は

みんな菩薩なのです。釈迦が滅した後、考え方や方向性の

違いで釈迦が残した言葉を研鑽する者や民衆と共に有る

釈迦の行為をまねる者がいました。前者を上座部、後者を

大衆部と言います。この二者は同じ僧院で一緒に生活して

いたようです。根本的に分かれたのは七世紀以降ではない

かと言われています。玄奘三蔵がナールンダで学び、大乘

經典と併せアピダルマを持ち帰ったからです。同じ大学でも

学部が異なるように、同じ僧院に長老派と大衆派が当初

から同居していたのだろうと想像できます。大衆派も長老

派も互いに影響しあっていたのではないかと考えます。

上座部でも菩薩は居りますが大衆部とは意味が異なる

ようです。上座部の菩薩は「悟りに執着する者」とのことで、

大衆部の菩薩は空という概念から執着なく利他する者の

ことです。薩埵の綴りが異なるようです。薩埵のことを大

士とも言います。大士とは大いなる心という意味で大衆の

中で活動する者を言います。悟りを求める自利と慈悲によ

り人々を指導教化する利他です。周りは皆菩薩大士です。

故に仏教に耳を傾け又仏教書を読む時は、靈山会上で声

聞僧に交わって源信・源空・多くの菩薩や親鸞と同じ釈

迦の説法を私も聞いているのだと思うことです。

逆縁

ぎやく えん

「逆縁」は元の意味と世間で使われている意味が大きく異なる代表格でしょう。世間で「逆縁」というと、

先に若い人が亡くなることを意味します。ところが、広辞苑で「逆縁」を引くとこの意味では出てきません。

① 仏に反抗し、仏法をそしることなどがかえって仏道に入る因縁となること。

② 年長者が年少者の供養をなし、または生前の仇敵が供養すること。親類縁者でもない、通りすがりの者が供養すること

③ 自己の修行を妨げる因縁

とあります。元々逆縁とは、仏教を嫌だと思っていたことが逆に縁となり仏道に入ることを言っていました。若い人が亡くなることを逆縁と言うようになったのは、②の意味が変化をしたのです。年長者が年少者の供養をすることが転じて若い人が亡くなるという意味に転じたのです。



先に我が子を亡くした住職が言われていました。「死は怖くはない。息子がいる家に帰ると思うと怖くはないのだ」と。仏法を頂くとむなしくすぐる人はないのです。

ネンがばかになつた
おや、おや
私が、ネンがばかに

こんなところに 仏教用語

用教仏近
語を紹介して
います。

獲得

ぎやく とく

「かくとく」と読みたいところですが、仏教用語としては「ぎやくとく」と読みます。意味は得ることといたいたいのですが、

「いただく」としたほうが浄土真宗の意味合いになります。ここから先は知っておくと正信偈などの意味がわかりやすいという知識の話です。

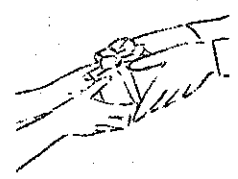
「獲」と「得」の違いについてです。同じ意味をもつ漢字を並べた二字熟語ですが、親鸞聖人は「獲」と「得」を使い分けておられます。

「獲」は我々が生きているときに阿弥陀如来の慈悲をいただくことや、生きている間の利益を「獲」と表記されます。正信偈を見ますと、「獲信見敬大慶喜」（信心を賜り、如来のはたらきを慶ぶ人は）や「必獲入大会衆数」（必ずや仏に成る位に定まるのです。）とあります。

「得」は、この世のいのちが付き、すぐに仏になる利益を「得」と表記されます。

正信偈には「得至蓮華藏世界」（極楽浄土に往生すれば）とあります。

「獲」と「得」を意識して正信偈を読んでみてください。



「獲」と「得」を意識して正信偈を読んでみてください。

法座案内

十二日(日) 十三時〜十五時

はじめの一步 第九回

浄土真宗を一から学ぶ会です。今は正信偈を少しずつ読んでいます。初めてでもぜひご参加ください。

二十六日(日) 十三時〜十五時

日曜法座

法話・住職

「この心も身も全部

如来からのいただきもの」

今月の法語カレンダーより住職がお取次ぎいたします。

***感染症対策へのご協力をお願いいたします。**

各種ご案内

・お朝事

毎朝六時半〜七時、お勤めをしています。日々のお参り、命日などにお参り下さい。

・草取り

十七日(日) 八〜九時 是非お手伝いを！

・写経会

八日(金) 十三時〜十五時
ゆつくりと書いています。いつでもどうぞ

・壮年会・婦人会主催の勉強会

壮年会 六日 八月は休み 十八時〜
婦人会 十二日 十時〜十二時

・門信徒会費 口座振込先

振込番号です ゆうちよ銀行
西光寺門信徒会 00180-0-713424
会費 年間一万二千元

・夏休み子ども会参加者募集中！

紙切り体験をしませんか？
八月二十一日(日) 十時〜十二時
会費…無料 要予約 持ち物…はさみ

・心耕発送者募集！

心耕(月刊西光寺新聞) 発送作業をお手伝いいただける方を募集します。

形態…三カ月に一度 主に月初めの平日
時間…一〇時〜一二時 特製ランチ付♪

・西光寺公式アカウントが出来ました

西光寺のライン用アカウントが出来ました。お寺の行事などを配信予定です。ラインをされている方は、左のQRコードから登録してください。

・西光寺チャンネル新作配信

YOUTUBEの西光寺チャンネルにて、ドット絵アニメ「龍王とガルダ」の動画を配信
西光寺チャンネルで検索か、
以下QRで

・感染症対策について

37.5℃以上の発熱、咳が出る方はお参りをお控え下さい。マスク着用、消毒にご協力下さい。法座等の集まる行事では、念の為、氏名をご記入頂く場合があります。

・お盆参り

お盆参りご希望の方は、同封のハガキにてご希望の日時を添えて返信して下さい



住職多感

三年続いて西光寺ではアジサイとコスモ

スが一緒に咲いている。コスモスは秋ほど

ではなく三々四輪次々と咲き続けていくと

いう風情で九月彼岸の本番前まで続く。三

年も続けばいつかは、コスモスは梅雨のこ

ろから先始め秋一杯咲き続ける花です、と

いうのが常識になるのか見知れない。実際、

若い人や子供たちに、トマトやキュウリは

夏の食べ物です。いちごは春の果物ですと

言っても、ウツソーと言われかねないこと、

スーパーに行けばよくわかります。

冗談だよと思っていや事がいつの間にか

冗談ではなくなる。恐ろしいことも含めて

人の世ではよくあることです。それが急激

に起これば大変だとなるのだが緩やかに

徐々に変わっていけば何の不思議もないこ

とになる。タコをいきなり熱湯に入れば

タコは大暴れするのだが、水から少しづつ

沸かしていけば、タコはおとなしく茹で上

がるというが、タコを笑えなくなっている
人が少なからずいる。昔のことを知っている
年寄りに多い。

九州の実家は兄が十八代目という寺で、

三々四百年、時代の中に続いている。二つ違

いの兄と私が子供の頃が最も貧しいといっ

てよい頃で、幸い戦後の周りが貧しかつ

た時代だったので、貧しさを実感すること

は殆どなかったが、寺の会計を見てくれて

いる役員から、生活保護の話がされたと母

が言っていたことを覚えている。そんなこ

とで兄が龍谷大学に進学する時、門徒中が

四年分の学費を出し合ってくれた。その余

りが若干あったので私も多少遅れはしたが

同じところに進学できた。門徒で寺の後継

者の学費を負担する。兄の場合もわずかな

例だったと思うが、今ではもう化石のよう

なことだと笑い話になる。私にとってはず

い昨日のことなのだが世の中ではそうなの

だ。一から十まで門徒に支えられて暮らし

ている。真宗僧侶の基本だった。^{ナニカガッ}

八月の行事

・ 十二・十三・十四日

西光寺盆会

布教使 小笠原宣隆師

・ 二十一日 子供会

・ 廿九・三十日 二十一日 八時

・ 女子総会、勉強会はお休み

・ 御晨朝 つかめます。

発行

浄土真宗本願寺派(西)

西光寺

〒二九〇一〇〇二四

千葉県市原市根田

七三三二一

TEL. 0436-22-7412

FAX. 0436-24-1652

HP. <https://www.saikohji.net>

MAIL saikohji@hb.tp1.jp